

社員を育てることが  
社長業の大事な仕事

社長は大変です。社長業が楽しいなんて僕は思ったことはない。この不況の中、大手物流会社さんや関係各社が、一生懸命仕事を請け、汗を流して上げた利益の中で、僕ら協力会社に仕事を割り振ってくれているのです。それを楽しいとか面白いという不謹慎な言葉ではとても言えないです。

当社の事業のひとつである建設業で

いたら、主に国の公共事業になります。国民の皆さんの税金ですよ。それを皆さんに納得してもらうように、どう使うか? という中で仕事をさせていたれているのです。重い話はあっても、軽い話なんてひとつもありません。民間事業である物流のほうも、もちろん大変です。大手物流数社さんがあり、我が社が成り立っているわけですが、人が荷物を送るときには、気持ちがありますよね。ただ荷物を運ぶだけではなく、その気持ちも一緒に運ぶ、と

いうことを間接的にさせてもらっているのが当社です。大手の物流会社さんが営業してとってきた仕事を手伝わせていただくときに、絶対に迷惑はかけられない。自社が直接クライアントさんから請けた仕事なら、万が一の場合、僕が謝らせてもらえばいい。ですが、間接的に関わる仕事ではそうはいきません。少しの間違いも許容できない、閉塞感のある世の中になってきたからこそ、よりよいサービスや仕事ぶりでカバーしなくちゃいけない。だからこそ、僕は社長

業を一生懸命やり、社員をきちんと育てなければいけないと思っています。  
**一度の間違いは許す、それが大島流の人材育成**

今はその人材育成が一番の課題です。若い社員をひとり立ちさせたいけれど、最近の日本は、最初に躓くとすべてダメという烙印を押してしまう風潮があります。「失敗は成功のもと」ということわざがありますが、最近では難しいですね。だから、実践社会では人材を育成

社長という仕事は決して面白い仕事じゃない。  
ただ、そんな不謹慎な言葉は使えません

野球少年だった19歳の青年が、突如飛び込んだ経営の世界。建設事業が主体だった会社に、物流事業を立ち上げ、見事に2本柱を打ち立てた現在。その社長としての手腕を高く評価されている大島社長に、自身の考える「社長像」を伺ってみた。

株式会社大島産業グループ 代表取締役CEO

大島 康朋



## 株式会社大島産業グループ

本社 〒811-4154 福岡県宗像市富地原1791-1  
電話 0940-33-1558(代)  
URL <http://www15.ocn.ne.jp/~ohshima/>  
創業 1967年  
事業内容 建設事業・物流事業  
代表取締役CEO 大島 康朋  
〈出身校〉  
和歌山県立箕島高等学校 普通科卒業(硬式野球部)  
第65回全国高等学校野球選手権大会 出場

する場面がなかなかないのです。先輩が傍らについて仕事を教えプロとして育てても、ひとりきりになったら誰でも最初は上手いきません。ですから、当社は一度の間違いは許します。これは社員にもきちんと伝えることです。もちろん、他社さまに迷惑をかけない、僕が責任を取れる範囲のことですが、なぜそういうことになってしまったのか? これを自身で考えられるようにしなければ、人は同じ過ちを繰り返します。それが理解できれば、人は成長しますし、

仕事のレベルもアップします。ときには会社の業績を左右することもあるでしょう。そのときは、僕が頭を下げればいいのです。それが僕の仕事です。  
理想の社長像もなく、特別な経営哲学も持たず、ただ目の前の仕事を一生懸命やってきた結果が今の我が社です。すべてのトラックに入れている「ガンバル!!」という言葉こそ、シンプルですが仕事の基本ではないでしょうか。だから、社長の僕もまだまだ頑張らなければいけないです。  
(談)